学校番号	3010

令和5年度　工業（インテリアデザイン）　科

教科	工業	科目	インテリア装備	単位数	1 単位	年次	3 年次
使用教科書	インテリア装備（東京電気通信大学出版局）						
副教材等	なし						

1担当者からのメッセージ（学習方法等）

3年生のインテリア装備では科目の目標に示す資質・能力を身に付けることができるよう、(1) 建築構造と力学、(2) 建築設備、(3)インテリアの施工、(4) インテリア材料の種類と性質、(5) インテリアの維持保全とリフォーム、(6) インテリア装備に関する法規　の6つの項目について学び、インテリアを構成する各部位やエレメントの材料、構造、施工の視点から捉え、工業生産と相互に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、インテリア装備の技術を活用してインテリア産業を担うことができるようにすることをねらいとしています。

履修条件
なし

2学習の到達目標

建築物やインテリアの立体的な構造、多様なインテリア材料と施工方法などの基礎を理解する。住宅などのインテリア装備や各種メディア教材を使用し、室内空間を構成する各部位を踏まえて理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

3学習評価 評価 規準 と評価方法

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	インテリア装備を建築に施工する力の向上をめざして自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	インテリア装備に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	インテリア装備について関連する技術を身に付けるようにする。	インテリア装備について室内空間を構成する各部位を踏まえて理解 する。
評価方法	・学習状況の観察 ・プリント ・レポート ・テスト ・発表 ・自己評価・相互評価 等	・学習状況の観察 ・プリント ・レポート ・テスト ・発表 ・自己評価・相互評価 等	・学習状況の観察 ・プリント ・レポート ・テスト ・発表 ・自己評価・相互評価 等	・学習状況の観察 ・プリント ・レポート ・テスト ・発表 ・自己評価・相互評価 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	建物設備と造作	・建築設備 ・インテリアの施工 ・床・壁・天井の下地と仕上げ ・開口部 ・階段 ・造作 ・施工管理	〇	〇	〇	〇	a:自ら学び、インテリア装備を活用した豊かで快適なインテリアの計画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 b:建築設備や造作に関する課題を見いだすとともに解決策を考えている。 c:建物を構成している構造や設備について関連する技術を身に付けている。 d:建物を構成している構造や設備について種類や構成を理解している	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価 等
2	インテリア材料と素材	・インテリア材料の種類と性質 ・構造材料 ・機能材料 ・仕上材料 ・ユニット材	〇	〇	〇	〇	a:自ら学び、インテリア装備を活用した豊かで快適なインテリアの計画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 b:建築設備や造作に関する課題を見いだすとともに解決策を考えている。 c:建物を構成している構造や設備について関連する技術を身に付けている。 d:建物を構成している構造や設備について種類や構成を理解している	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価 等
3	インテリアと周辺環境	・安全な居住環境 ・インテリアの維持保全とリフォーム ・構造力学	〇	〇	〇	〇	a:自ら学び、インテリア装備を活用した豊かで快適なインテリアの計画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 b:インテリア装備に関する課題を見いだすとともに解決策を考えている。 c:安全な居住環境とインテリアの維持保全についての技術を身に付けている。 d:安全な居住環境とインテリアの維持保全について理解している。	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価 等

※　表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c:技能　　d: 知識・理解

※　年間指導計画(例)作成上の留意点
・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について〇を付けている。